

ツクルビトビト

クリエイターインタビュー

「フラッフィー・バブル」「ふんわり洗隊カワマジー」をはじめ、NPO 団体のキャラクター「ミミー」など、多くのキャラクターを手がけるムライタケシ氏。イラストレーター、絵本作家という肩書きを持ちつつ、キャラクターのデザインも手掛けるムライ氏に、自身にとってのキャラクターという存在、今後の展望について語ってもらった。



フラッフィー・バブル

“生み出すキャラクターを通して楽しみ尽くす”

—キャラクターデザインを始めたきっかけは？

ムライタケシ (以下 M) 2007年にサンリオさんと契約したのがきっかけです。それまではキャラクターを描く概念がなくて、基本的に雑誌や書籍、WEBのイラストやデザインが中心でした。「フラッフィー・バブル」は知り合いのお店で原画展を開いたのですが、そのお店がたまたまサンリオの副社長の行き着けのお店だったので。そういったご縁もあってスタートしたのです。もうラッキーとしか言えなかったですね。当時は、絵のタッチが手描きの色鉛筆だったのですが、「キャラクターは正面が大事だから、デジタルでもっと線を太くしなさい」とご教示いただいて、現在の「フラッフィー・バブル」が完成しました。絵本を描き始めて、サンリオさんとの出会いがあって、それまでふにゃふにゃだった自分も作家として筋が通りました(笑)。そこからキャラクターのデザインやビジネスに少しずつ入っていった感じです。

—ムライさんにとって、キャラクターという存在はどのようなものですか？

M 子どもを育てるように時間がかかるものだと実感しました。継続して育てていくことが重要だと思います。あと、作家としてのテーマを突き詰めていきつつ、楽しんで続けることが大事ですね。僕自身が生み出すキャラクターとしては、そっと寄り添うようなキャラクター、いても気にならないけどいないとさびしい、そんな絶妙な存在になってほしいと思っています。



ふんわり洗隊カワマジー

—ムライさんのキャラクターは、どのような世代に受け入れられて



●プロフィール

1972年、東京都出身。広告代理店、キャラクターグッズメーカーなどを経て、デザイン企画会社・有限会社グリーンルームを設立。2008年に「フラッフィー・バブル」がサンリオとのライセンス契約により商品化をスタート。その後、EMI music Japanのキャラクター「emiCHAN」や、東京書籍「小学生の英語絵ずかん」のイラストなどを担当。現在、「ふんわり洗隊カワマジー」が角川書店の「ケロロランド」に掲載中。

URL: <http://www.takeshimurai.com/>

いるのですか？

M 作品やキャラクターにより変わりますが、特に力をいれている「ふんわり洗隊カワマジー」が3~5歳くらいまでの年齢層をターゲットに物語や世界観を作っています。僕のキャラクターは絵本から出てくる事が多いのですが、割と大人っぽいタッチのものもあるので、いろいろな年齢層に合ったキャラクターをつくる事ができると思います。ほかにも、NPO団体のキャラクター「ミミー」や、ベースボール・マガジン社が発行している中学校の部活応援マガジン『熱中』シリーズのキャラクターも担当させていただきました。

—それぞれのキャラクターがどんなふう成長するのか楽しみですね。

M そうですね。「バブル」に関しては海外エージェントも決まって、国内もさらに力を入れていくようなので期待しています。そんなふうにかけてもらえること自体ありがたいことなので、個人的にも早くたくさんの人に知ってもらえる機会ができるとうれしいですね。

—今後の作品に対する目標を教えてください。

M 当面の目標は、いま育てているキャラクターたちをしっかりと成長させていくことです。僕の夢である絵本の出版を実現したいです。たくさんの絵本で育ってきたので、これができるれば本当にうれしいですね。絵本はページをめくる瞬間に物語の“余白”を想像する、それが一番の楽しさだと思います。だから、出版は憧れです(笑)。多くの子どもたちに僕のキャラクターを知ってもらえるように、楽しみながら頑張ります